

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	保健福祉学部共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					○
	実用英語コミュニケーション		1	◎					○	
	中国語入門		1	◎					○	
	中国語発展		1	◎					○	
	ハングル入門		1	◎					○	
	ハングル発展		1	◎					○	
	日本語表現法		1	◎					○	
	メディアリテラシー		1	◎					○	
	情報処理基礎		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
	高齢者支援学Ⅱ		1	○	○		◎	○		
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	○				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	人文学部共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎				○
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
	ハングル入門		1	◎					○	
	ハングル発展		1	◎					○	
	フランス語入門		1	◎					○	
	フランス語発展		1	◎					○	
	日本語表現法		1	◎					○	
	メディアリテラシー		1	◎					○	
	情報処理基礎		1	◎					○	
	情報処理演習		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	地域プロジェクト		1	◎			○	◎		
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	キャリア形成支援	2		◎						
キャリア形成支援	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	○				◎		
			1	○				◎		

看護学科

学位授与の方針（DP）

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

【専門教育科目】

- 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通して社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護形態機能学Ⅰ	2		4								◎	○								
看護形態機能学Ⅱ	2			4							◎	○								
臨床栄養学	2				2						◎	○		○						
感染と免疫	2		3								◎	○								
疾病学総論	1			2							◎	○								
疾病学各論Ⅰ	2				4						◎	○								
疾病学各論Ⅱ	1				2						◎	○								
看護のための臨床検査	1				2						◎	○								
薬理学	2				2						◎									
保健統計学	2			2							◎	○								
社会保障概説	2			2						◎		○								
家族と健康	2				2						◎	○								
対人関係論	1		2							○	◎	○								
発達心理学	1				2					○		◎								
臨床健康心理学		1				1				○		◎								
医療と倫理		1		1							◎				○					
健康教育論	1				1						◎	○								
看護学概論	2		2							○	◎		○	○	○					
看護理論		1				1					◎	○								
看護倫理	1				1					○	◎				○					

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護実践の 基盤	看護技術論	1	2								○	◎		○	○	○		○		
	生活援助技術論演習	3		6								◎	○			○	○			
	診療関連技術論演習	1			2							◎	○			○	○			
	フィジカルアセスメント技術演習	1		2								◎	○				○			
	看護過程論	2			4							◎	○			○	○			
	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習								○	○	○	○	○	○		◎	
	基礎看護学実習Ⅱ	2			実習							○	○	○	○	○	○		○	◎
	公衆衛生看護学概論	2		2								◎	○		○					
看護実践の 応用	小児看護学概論	1			1						○	◎								
	小児看護学方法論	2				2						○	◎		○			○		
	小児看護学演習	1					2					○	○					◎		
	小児看護学実習	2						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	母性看護学概論	1			1						○	◎	○							
	母性看護学方法論	2				2						○	◎		○					
	母性看護学演習	1					2					○	○			○	◎			
	母性看護学実習	2						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
看護実践の 応用	成人看護学概論	1			1							◎	○	○						
	成人慢性期看護学方法論	2				2						○	◎		○					
	成人急性期看護学方法論	2				2						○	◎		○					
	成人看護学演習	2					4					○	◎	○	○	○	○			
	成人慢性期看護学実習	3						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	成人急性期看護学実習	3						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学概論	1			1							◎	○			○	○			
	老年看護学方法論	2				2						○	◎		○					
	老年看護学演習	1					2						○		○			◎		
	老年看護学実習Ⅰ	2						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学実習Ⅱ	1						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	精神看護学概論	1				1						◎	○							
	精神看護学方法論	2				2						◎	○		○					
	精神看護学演習	1					2						○		○			◎		
精神看護学実習	2						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎	
看護実践の 統合	在宅看護学	2					2					○	◎		○					
	在宅看護学演習	1					2						○		○			◎		
	在宅看護学実習	3						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
	看護マネジメント総論	1				1						◎	○		○	○				
	看護研究	1					2					○	◎					○		
	看護研究演習		3						2	4				◎				○	○	
	看護総合演習	1							1	1				◎	○	○		○	○	
	看護総合実習	2							実習	実習				○	○	○	○	○	○	◎

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護学特論		1							1				◎					○		
地域包括ケア	地域連携協働支援論	1			1					○		○		◎						
	地域生活支援論	1					2				○	○		◎				○		
	緩和・がん看護学	1					2				○	◎	○	○						
	NPO論	1	1						1			○		◎				○		
	看護の発展	看護キャリア形成論	1			1								◎		○			○	
		災害看護学	1							1		○	○		◎	○	○			
		国際保健論		1			1				○	○		◎						
		ウィメンズヘルス		1				1				○	◎	○						
看護キャリア形成と看護実践	クリティカルケア看護学		1						2			○	◎	○		○	○	○		
	看護マネジメント論		1						1			○	◎	○	○	○		○		
	公衆衛生看護関係科目	疫学	2	2			2						◎	○						
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	2			2						○	◎		○		○		
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	2				2						◎		○		○		
		対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	1			1						◎	○		○		○		
		対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	2				2						◎		○		○		
		保健医療福祉行政と政策	1	1					1					◎	○		○			
公衆衛生看護活動演習		2							4				○		○	○	◎	○		
公衆衛生看護管理論		2								2			◎		○	○	○	○		
公衆衛生看護学実習		5								実習 実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
養護に関する科目	学校保健	2	2			2						◎	○		○					
	養護概説	2	2			2						○	◎		○		○			
	健康相談	2	2				2					○	◎				○			
										◎	1	34	22	3	4	0	6	0	1	11
										○	10	22	51	21	40	29	29	23	11	0
										計	11	56	73	24	44	29	35	23	12	11

看護学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 - 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
 - 1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 - 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。
- DP3【関心・意欲】
 - 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲を持っている。
 - 3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲を持っている。
- DP4【態度】
 - 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
 - 4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
 - 4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。
- DP5【技能・表現】
 - 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
 - 5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 看護学科カリキュラムは、看護実践者の育成を目的として、教養教育と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、看護に関する倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアと看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通じて社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、看護教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状(看護)を取得できる。

科 目	選 択	高 一 種 免 除	養 教 一 種 免 除	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
教職概論	2	2	2		2							◎										
教育原理	2	2	2		2							◎										
教育心理学	2	2	2		2							○		○			○	○		◎		
教育社会学	2	2	2			2						◎		○								
教育課程論	2	2	2		2							◎										
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	2				2					◎		○	○			○				
特別支援教育論	1	1	1					1				◎	○	○								
教育方法論	2	2	2				2					◎										
看護教科教育法Ⅰ	2	2					2							◎	○				○			
看護教科教育法Ⅱ	2	2									←			◎	○				○			
学校保健教育法	2	2	2				2							○	◎				○			
道德教育の理論と実践	2	2	2		2							◎		○	○						○	
生徒・進路指導論	2	2					2					◎		○								
生徒指導論	2	2					2					◎		○								
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2							◎		○	○						○	
教育実習事前事後指導	1	1	1						←					○	◎				○			
看護実習事前事後指導	1	1	1						←					○	◎				○			
教育実習Ⅰ	2	2									←			○	○			○	○		◎	
看護実習	4	4									←			○	○			○	○		◎	
教職実践演習(中・高)	2	2										2		○		◎			○			
教職実践演習(看護教諭)	2	2										2		○		◎			○			

福祉学科

学位授与の方針(DP)

DP1【知識・理解】

- 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
- 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
- 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
- 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探究しようとする意欲がある。

DP4【態度】

- 4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
- 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
- 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
- 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針(CP)

1. 福祉学科は、福祉・介護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。

2. 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・介護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、介護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。

3. 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基盤として専門教育科目、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。

4. 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基本的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、介護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。

5. 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
6. 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2		
			1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期														
ヒューマンサービス基礎演習	1	2																						
基礎実習	2	2	2															◎			◎			
福祉入門	2	2																						
社会福祉の原理と政策 I	2							2					◎	◎	○	○	○	○	○	○				
社会福祉の原理と政策 II	2							2					◎	◎	○	○	○	○	○	○				
社会学と社会システム	2	2																						
社会福祉調査の基礎	2								2					◎		○	○							
ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2																						
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2		2											◎	◎	◎	◎	○	○	○	○			
ソーシャルワークの理論と方法 I	2			2																				
ソーシャルワークの理論と方法 II	2				2																			
ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	2					2												○	◎	◎	○	○		
ソーシャルワークの理論と方法(専門) II	2						2														◎	◎		
地域福祉と包括的支援体制 I	2					2												◎	◎	◎	○	◎	◎	
地域福祉と包括的支援体制 II	2						2											◎	◎	◎	◎	◎	◎	
福祉サービスの組織と経営	2									2														
社会保障 I	2						2														○	◎		
社会保障 II	2							2																
高齢者福祉	2							2													◎	◎		
障害者福祉	2								2															

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
児童・家庭福祉	2				2							◎	◎		○								
貧困に対する支援	2					2						○	◎		○								
保健医療と福祉	2				2							◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
権利擁護を支える法制度	2					2						◎	◎		○								
刑事司法と福祉	2						2					◎	◎		○								
介護技術演習	2	2											○									◎	◎
ファミリーソーシャルワーク論	2						2						○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○
スクールソーシャルワーク論	2							2					○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク演習	1					2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1						2							◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	1						2							◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	1							2						◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	1								2					◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2												◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4						2	2						◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1												◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4													◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉制度論	2							2					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神障害リハビリテーション論	2								2					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉の原理Ⅰ	2								2				◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○
精神保健福祉の原理Ⅱ	2									2			◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	2									2			◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
ソーシャルワークの理論と方法(専門) B	2							2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神医学と精神医療	4					4						◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) A	1					2						○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) B	1					←	→					○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) C	1							←	→			○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 A	2							←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 B	4							2	2			○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
ソーシャルワーク実習 A								←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	
ソーシャルワーク実習 B	2							←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	
ソーシャルワーク実習 C	2							←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	
精神障害者地域生活支援論	2							2				○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
心理学と心理的支援Ⅰ	2	2										◎			○								
心理学と心理的支援Ⅱ	2	2										◎			○								
認知行動療法基礎演習	1					2							○	◎	○								
発達アセスメント演習	1					2								◎	○							◎	
高齢者臨床心理演習	1					2								○	○							◎	
発達心理学Ⅰ	2	2										○	◎		◎								
発達心理学Ⅱ	2	2				2						○	◎		○								
発達臨床心理学	2					2							◎	○	○								
発達臨床心理学演習	2					2							◎	○	◎								
障害者心理学	2					2							◎	○	○								
臨床心理学概論	2	2										○	◎		○								
カウンセリング論	2					2							◎	○								◎	
社会心理学	2					2						◎			○								
家族心理学演習	2					2						◎	○	○		◎							
カウンセリング演習	1					2							○	○							◎	◎	
健康臨床心理学	2					2							◎	○	○								
スクールカウンセリング論	2					2							◎	◎									

科 目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
医学概論	4			4								◎			○							
微生物学	2		2									◎										
栄養学	2			2								◎			○							
生理学	2			2								◎										
解剖学	2			2								◎										
運動処方論	2					2						◎	◎									
学校保健	2			2								◎	○		○			○				
看護概説	2			2								◎	○	○		○		○				
地域保健学Ⅰ	2					2						◎	○	○								
地域保健学Ⅱ	2					2						◎	○	○		○		○				
看護学	4			4								◎	○	○		○		○			○	
基礎看護技術	2					2						◎	○		○						◎	
看護臨床実習	4			2	2							○	○	○		○		◎			◎	
薬理学	2					2						◎										
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2					2						◎	◎		○		○	○				
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2					2						◎	◎		○		○	○				
公衆衛生学	2					2						◎			○							
生命倫理	2					2						○		◎	○				◎			
保育原理	2	2										◎	◎									
社会的養護Ⅰ	2					2						◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎		

科 目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
社会的養護Ⅱ		1							2			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
教育原理		2			2						◎				○								
保育者論		2	2										◎	○	◎	○		○	○	◎			
子どもの保健		2	2									◎	○									◎	
子どもの食と栄養		2			2	2						◎	○									◎	
保育の心理学		2			2							○	◎	○									
子ども家庭支援の心理学		2						2						◎			○						
子どもの理解と援助		1						2							◎							◎	
子どもの健康と安全		1				2								○		◎		○				◎	
子ども家庭支援論		2						2						○	◎	◎	○	◎	○				
子育て支援		1							2								○	◎					
保育の計画と評価		2							2						◎					○			
保育内容 総論		1							2						○	○	◎	○				◎	
保育内容 健康		1					2								◎	○	◎					○	
保育内容 環境		1							2						◎	○	◎					○	
保育内容 人間関係		1							2						◎	○	◎					○	
保育内容 ことば		1		2											◎	○	◎					○	
保育内容 表現		1	2												◎	○	◎					○	
乳児保育Ⅰ		2						2							◎	○	○	○				◎	
乳児保育Ⅱ		1							2							○	○	○				◎	
障害児保育		2						2	2						◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	
保育内容の理解と方法Ⅰ		1	2												◎	◎	◎					◎	
保育内容の理解と方法Ⅱ		1		2																		◎	
保育内容の理解と方法Ⅲ		1							2													◎	
保育内容の理解と方法Ⅳ		1							2													◎	
保育実習Ⅰ		4							一	一					◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎

科 目	必修	選 択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2					
			1年次		2年次		3年次		4年次																		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
保育実習指導Ⅰ	2							←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○				
保育実習Ⅱ	2								←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導の授業とリンクして実施する。 ・実習前に、実習オリエンテーション、実習生紹介票、実習計画作成、事前訪問についての個別指導を行う。 ・実習期間中、担当教員の巡回訪問では個別指導と共に、実習先のスーパーバイザーとの連携・協力を図る。 ・実習後学習として、担当教員による実習体験後のスーパービジョンと体験を共有するための報告会を行う。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	◎		
保育実習指導Ⅱ	1								←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○		
保育実習Ⅲ	2								←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所以外の児童福祉施設において、社会福祉施設の実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○		
保育実習指導Ⅲ	1								←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○		
保育実践演習	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育にかかわる課題に関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修する。 ・問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する手法を取得する。 																
専門研究Ⅰ	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導の下、各自(各グループ)で設定したテーマに基づいて研究を深めることが出来る。 	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
専門研究Ⅱ	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・各自(各グループ)で設定したテーマに基づいて専門領域の研究を深め、その成果をまとめることができる。 	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
卒業論文	4								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域の研究プロセスを学び、その成果を卒業論文としてまとめることができる。 	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎						

栄養学科

学位授与の方針 (DP)

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士(栄養学)の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心をもち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。

DP4【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身につけている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

【専門教育科目】

1. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)
2. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨床実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)
3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を修得する。さらに、卒業研究、実践活動、演習を通して、4年間の学びの集大成を行い、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)
4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状が取得できる。

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
公衆衛生学Ⅰ	2				2									○	○	○	○	○	○	○
公衆衛生学Ⅱ	2				2									○	○	○	○	○	○	○
健康管理概論	2					2								○	○	○	○	○	○	○
健康情報処理論	2				2									○	○	○	○	○	○	○
社会福祉概説	2				2									○	○	○	○	○	○	○
看護学	2							2						○	○	○	○	○	○	○
解剖生理学	2	2												○	○	○	○	○	○	○
応用生理学	2		2											○	○	○	○	○	○	○
生化学Ⅰ	2		2											○	○	○	○	○	○	○
生化学Ⅱ	2			2										○	○	○	○	○	○	○
病理基礎医学	2		2											○	○	○	○	○	○	○
疾病診断治療学Ⅰ	2			2										○	○	○	○	○	○	○
疾病診断治療学Ⅱ	2				2									○	○	○	○	○	○	○

科目	必修	選	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次		3年次		4年次										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
専門基礎分野	微生物学	2				2								◎			○		
		2					2						○	○	◎				
	運動生理学	2												○	○	◎			
		2												○	◎	○			
	食品学Ⅰ	2		2										○	○	○			
		2			2									◎	○	○			
	食品学Ⅱ	2			2									◎	○	○			
		2				2								○	◎	○			
	加工食品機能論	2					2							○	◎	○			
		2												○	◎	○			
	調理学	2	2											○		○			
		2												○		○			
	食品衛生学	2							2						○	○	◎		
		2													○	○	◎		
フードスペシャリスト論	2	2												○					
	2													○					
食品の官能評価・鑑別論演習	2				2	2								○					
	2													○					
食品流通・消費論	2							2						○	○				
	2													○	○				
フードコーディネータ論	2								2					○	○				
	2													○	○				
実験・実習	解剖生理学実習	1												○	○	○		○	
		1		3										○	○	○		○	
	人体の構造と機能基礎実習	1													○	○	○		○
		1		3											○	○	○		○
	生化学実習	1													○	◎	○		○
		1													○	◎	○		○
	食品学実験	1													○	○	○		○
		1													○	○	○		○
	食品栄養実習	1													○	○			○
		1													○	○			○
	食品衛生学実験	1														◎			○
		1														◎			○
	健康情報処理実習	1													○	○	○		○
		1													○	○	○		○
基礎調理学実習	1													○	○			○	
	1													○	○			○	
応用調理学実習	1													○	○			○	
	1													○	○			○	

専 門 教 育 科 目	科 目	必 修 単 位	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
			1年次		2年次		3年次		4年次										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
専 門 分 野	臨床基礎医学実習	1					3												
	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2		2								○	○					
		基礎栄養学Ⅱ	2		2								○	○					
	応用栄養学	栄養学概説	2		2								○	○	○				
		応用栄養学Ⅰ	2			2							○	○	○				
		応用栄養学Ⅱ	2			2							○	○	○				
		運動・環境と栄養	2				2						○	○	○				
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2				2						○	○	○	○		
			栄養教育論Ⅱ	2				2						○	○	○	○		
	栄養カウンセリング論		2					2					○	○	○	○			
	臨床栄養学	臨床栄養管理学	2				2						○	○	○				
		栄養治療学Ⅰ	2					2					○	○	○	○			
		栄養治療学Ⅱ	2					2					○	○	○	○			
		臨床栄養活動論	1						1				○	○	○	○			
		介護概論	1							1			○	○	○	○			
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ							2				○	○	○			
			公衆栄養学Ⅱ							2				○	○	○			
	地域栄養活動論		2						2				○	○	○	○			
給食経営管理論	給食計画論	2						2				○	○	○					
	給食経営管理論	2						2				○	○	○					

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次									
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
		修 積	修 積	修 積	修 積	修 積	修 積	修 積	修 積								
実 験 ・ 実 習	栄養学実習	1			3						◎	○	○				
	応用栄養学実習	1				3					○	◎	○	○	○	○	○
	栄養教育論実習 I	1					3				○	○	○	○	○	◎	○
	栄養教育論実習 II	1						3			○	○	○	○	○	○	◎
	臨床栄養学実習	1							3			○	○	○	○	○	◎
	公衆栄養学実習	1								3		◎	○	○	○	○	○
	給食経営管理実習 I	1								3		◎	○	○	○	○	○
	給食経営管理実習 II	1									3	◎	○	○	○	○	○
総 合 演 習	総合演習 I	1								2		○	○	○	○	◎	○
	総合演習 II										2		○	◎	○	○	○
	臨地実習 I	1								1週		○	○	○	○	◎	○
臨地実習 II										2週		○	○	◎	○	○	○
臨地実習 III	1								1週		○	○	○	○	○	◎	○
食 と 健 康 分 野	調理師論	2	2									◎	○	○	○	○	○
	薬事法規概論	2	2									◎	○	○	○	○	○
	食品機能特論	2								2		○	○	◎	○	○	○
実 践 栄 養 分 野	実践調理・調理科学演習	1								2			○	○	○	◎	○
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1								2		○	◎	○	○	○	○
	国際栄養論	2								2		○	○	○	○	○	◎

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		修 択																
期・専門研究	臨床栄養管理演習		1						2	1. 疾患・病態および栄養状態を把握し、各種疾患の治療のための栄養ケア計画を立案できる。 2. 身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理できる。 3. 栄養管理ソフトを用いて、常食献立から治療食・療養食へ展開できる。		○	○	○		○	◎	
	ゲノム科学臨床応用論		2						2	1. ゲノムの概念、ゲノム解析技術、遺伝子診断技術について説明できる。 2. バイオインフォマティクスの現状と将来像について説明できる。 3. 遺伝子診断による疾患の発症予想技術について説明できる。 4. 遺伝子診断結果の疾病治療への応用と実践について説明できる。 5. 遺伝子診断結果の栄養治療への応用と実践について説明できる。			○	◎			○	
その他	科学英語文献購読		1						1	1. 英語で書かれた栄養に関する学術論文を読むことができる。 2. 栄養系大学院入試の英語科目に対応することができる。 3. 英語圏の海外留学において、栄養系の科目を履修できる能力を習得する。				○			◎	
	卒業研究		4					4	4	4	1. 研究テーマについて、情報の収集、問題の設定、研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 2. 研究計画に従って研究を遂行し、研究結果を他人に分かりやすい形に整理することができる。 3. 研究に関連する参考文献から情報を収集し、自己の結果と客観的に比較・考察することができる。 4. 研究の成果を、科学的な研究論文としてまとめることができる。	○	○	○	○	○	○	○
	実践活動		2					2	2	1. セミのテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 2. セミのテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 3. セミのテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。	○	○	○	○	○	○	○	
	管理栄養士演習Ⅰ		2						2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」および「基礎栄養学」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				
	管理栄養士演習Ⅱ		2						2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」および「給食経営管理論」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				

栄養学科

学位授与の方針（DP）

DP1【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている。

DP4【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理を持っている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

1. 総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに、管理栄養士及び栄養士にふさわしい豊かな人間性とコミュニケーション能力を養う。
2. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。（1年次、2年次）
3. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。（3年次）
4. 卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、4年間の学びの集大成を行う。また、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力を養う。（4年次）
5. 各人が関心のある科目を体系的に履修できることを目的として、総合人間科学、専門基礎分野、専門教育分野の科目の中から、卒業必修科目、栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、及び教職に関する科目をそれぞれ設定する。

科 目	選 択	栄 養 一 種 免	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
教職概論	2	2			2							◎						
教育原理	2	2		2								◎						
教育心理学	2	2			2							◎	○	○	○	○	○	○
教育社会学	2	2				2						◎		○				
教育課程論	2	2				2						◎						
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2					2					○	◎	○	○	○	○	○
特別支援教育論	1	1						1							○	◎		○
教育方法論	2	2							2			◎						
学校栄養指導論Ⅰ	2	2								2		○	○	◎	○	○	○	○
学校栄養指導論Ⅱ	2	2									2	○	○	◎	○	○	○	○
道徳教育の理論と実践	2	2									2	◎		○	○			○
生徒指導論	2	2								2		○	◎	○	○	○	○	○
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2								2		○	○	○	○	○	○	◎
栄養教育実習事前事後指導	1	1										○	◎	○	○	○	○	○
栄養教育実習	1	1										○	◎	○	○	○	○	○

教職実践演習（栄養教諭）	2	2								2	1. 教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題を確認する。 2. 栄養教諭として求められる資質・能力を具体的な学校場面に位置づけて考えることができる。 3. 信頼される学校づくりに資する栄養教諭のあり方についての理解を深めることができる。 4. 児童生徒等の理解の方法とそれに基づく教育活動について実践力を高めることができる。 5. 食の指導の計画・実施・評価に関する実践力を高めることができる。 6. 栄養教諭としての自律的な成長に必要なリソースの活用法を身につけることができる。	○	○	○	○	○	◎	○
--------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	---	---	---	---	---	---

英語学科

学位授与の方針 (DP)

人文学部英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士(人文学)の学位を授与します。

- DP1【知識・理解】**
 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
 1-2) 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】**
 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】**
 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
 3-2) 国際社会や地域社会が抱える課題に関心をもち、課題解決のために自らの能力を高めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】**
 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】**
 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
 5-2) 英語及び日本語による情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 英語学科カリキュラムは、教養教育科目を基盤とし、専門教育科目の「英語スキル科目」、「英語コミュニケーション科目」、「国際理解科目」、「キャリア形成科目」、「地域貢献・国際貢献科目」、「演習・研究」で構成する。
- 「英語スキル科目」では、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎を育成する。
- 「英語コミュニケーション科目」では、英語の4技能(聴く、話す、読む、書く)を向上させるため、Active Learningの手法を取り入れた科目や英語文学を含む英語の総合力向上を目指す科目で構成する。
- 「国際理解科目」では、異文化理解を深め、英語・日本語などを通して、国際社会に関する知識と思考能力などを養う科目と、海外研修に関わる科目で構成する。
- 「キャリア形成科目」では、国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいく。また、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目では、所定の単位数を修得することで、高等学校教諭一種免許状(英語)、中学校教諭一種免許状(英語)の取得、日本語教員養成課程修了証が授与される。
- 「地域貢献・国際貢献科目」では、英語を通して地域社会や国際社会における課題解決力やリーダーシップを育成する。
- 「演習・研究科目」では、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を育成する。

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次		3年次		4年次															
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
実践英語音声学 I	2		2									◎												
実践英語音声学 II	2			2								◎												
文法・コンポジション I	2		2									◎												
文法・コンポジション II	2			2								◎												
英検演習 I	2		2									◎		○								◎		
TOEIC演習 I	2			2								◎		○										
英検演習 II	2			2								◎		○								◎		
TOEIC演習 II	2				2							◎		○										
英語プレゼンテーション I	2				2							◎										○	○	
英語プレゼンテーション II	2					2						◎										○	○	
英語プレゼンテーション III	2						2					◎										○	○	
英語コミュニケーション I	2		4									◎		○								○	○	
英語コミュニケーション II	2			4								◎		○								○	○	
英語ディスカッション I	2				2							○		○									◎	
英語ディスカッション II	2					2						○		○									◎	
英語プロジェクト I	2						2					○	○	○	○	○						◎	○	
英語プロジェクト II	2							2				○	○	○	○	○						◎	○	
グローバル英語 I	2								2			○	○	○	○	○						○	◎	○
グローバル英語 II	2									2		○	○	○	○	○						○	◎	○
リーディング I	2		2									◎		○								○	○	
リーディング II	2			2								◎		○								○	○	
リーディング III	2				2							◎		○								○	○	

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
ケーション科目																					
	リーディング IV		2			2													○		
	英語学概論I		2		2															○	
	英語学概論II		2		2															○	
	ライティング基礎		2		2															○	
	パラグラフ・ライティング		2		2															○	
	エッセー・ライティング		2				2													○	
	英語文学I		2			2														○	
	英語文学II		2			2														○	
	英語通訳演習 I		2				2													○	
英語通訳演習 II		2				2													○		
専門教育科目	欧米文化交流研修A		2	2																○	
	アジア文化交流研修A		2	2																○	
	欧米文化交流研修B		2	2																○	
	アジア文化交流研修B		2	2																○	
	メディア英語 I		2	2																○	
	メディア英語 II		2			2														○	
	時事英語入門		2				2													○	
	応用時事英語		2				2													○	
	異文化間コミュニケーション I		2			2														○	
	異文化間コミュニケーション II		2			2														○	
	エリア・スタディ I		2			2														○	
	エリア・スタディ II		2			2														○	
	国際理解科目	国際経済入門		2			2														○
国際関係入門			2			2														○	
日本の歴史と文化地理 I			2	2																○	
日本の歴史と文化地理 II			2			2														○	
文化人類学			2			2														○	

英語学科

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
 1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
 4-1) グローバル社会にあつて、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
 5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
- 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	(高英一語種) 免	(中英一語種) 免	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
教職概論	2	2	2			2							◎							○		
教育原理	2	2	2		2								◎							○		
教育心理学	2	2	2			2							◎							○	○	
教育社会学	2	2	2				2						◎		○							
教育課程論	2	2	2				2						◎							○		
特別活動論及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	2					2					◎							○		
特別支援教育論	1	1	1						1						◎						○	○
教育方法論	2	2	2							2				◎							◎	
英語教科教育法Ⅰ	2	2	2							2				◎							○	
英語教科教育法Ⅱ	2	2	2								2			◎							○	
英語教科教育法Ⅲ	2	2	2									2									◎	○
英語教科教育法Ⅳ	2	2	2									2									◎	○
英語教科教育法Ⅴ	2	2	2										2								◎	○
道徳教育の理論と実践	2		2				2							◎		○	○					○
生徒・進路指導論	2	2	2						2						○	○				◎	○	
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2						2						○					◎	○	
教育実習事前事後指導	1	1	1																		○	◎
教育実習Ⅰ	2	2											←	→						○		◎
教育実習Ⅱ	4	4	4										←	→						○		◎
教職実践演習(中・高)	2	2	2												○		○					◎

英語学科

学位授与の方針（DP）

DP1【知識・理解】

- 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
- 1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

DP4【態度】

- 4-1) グローバル社会にあつて、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
- 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
- 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
- 5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 1. 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
- 2. 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 3. 「専門基礎科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 4. 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 5. 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 6. 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- 7. キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科目	単	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		1年次		2年次		3年次		4年次											
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
日本語概論	2		2								◎			○					
日本語教育方法論Ⅰ	2	2									◎			○					
日本語教育方法論Ⅱ	2		2								◎			○					
日本語教育方法論演習Ⅰ	2			2									◎	○	○				
日本語教育方法論演習Ⅱ	2				2								◎	○	○				
日本語教育実習	4						←	→								◎	○		

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
専 門 科 目	基礎中国語	□			2							○	◎	○								
	中級中国語	□			2							○	◎	○								
	上級中国語	□				2						○	◎	○								
	応用中国語	□					2					○	◎	○								
	ツーリズム中国語	2						2					◎			○	◎					
	中国語通訳ガイド演習	2							2				◎			○	◎					
異文化交 流に 関する 科目	欧米文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	欧米文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	比較文化論	2	2												◎			○				
	欧米観光文化地理Ⅰ					2						◎		○								
	欧米観光文化地理Ⅱ						2					◎		○								
	アジア観光文化地理Ⅰ	2				2								◎								
	アジア観光文化地理Ⅱ	2					2								◎							
	映画で学ぶ欧米文化	2						2							◎			○				
キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアデザイン論Ⅰ	2					2								◎		○	○	○			
	インターンシップ	2						2									○	○	◎	○		
	キャリアデザイン論Ⅱ	2							2							◎		○	○	○		
留 学 生 対 応 科 目	初級日本語	■	2											○		○	◎					
	中級日本語	■	2												○		○	◎				
	上級日本語	■	2												○		○	◎				
	応用日本語	■	2													○		○	◎			
	論文執筆	1					2															
演 習 ・ 研 究 科 目	ツーリズム演習	1					2							○		○	○	◎		○	○	
	ビジネス演習	1					2							◎			○	○	○	○		
	地域活性化演習	1						2						○		◎	○	◎				
	専門演習Ⅰ	1							2					○		◎	○	○	○	○		
	専門演習Ⅱ	1								2					○		◎	○	○	○		
	卒業研究	4									4				◎		○	○	○	○		

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、ライフサイクル・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
				1-1	1-2		1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1			
				前期	後期										
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	1. 助産の基本概念と助産に関連する理論の概要について説明できる。 2. 日本における助産師の責務と役割、法的立場づけについて説明できる。 3. ライフサイクル・ヘルス/ライフの基本となる考え方について説明できる。 4. 我が国の母子保健の動向と課題を他国と対比させて説明できる。 5. 助産実践の倫理的課題を説明できる。 6. 助産過程の枠組みと展開について説明できる。 7. 助産師教育や助産の方向性について考えることができる。	◎	○	○						
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	1. 男女のライフサイクルに関する形態・機能、性と生殖に関連する疾患、その対応について説明できる。 2. ライフサイクルに必要な医療機器の操作や検査およびデータの判読ができる。	◎	○		○	○				
	母子の心理・社会学	1	1		2	1. 思春期・青年期の身体的変化および心理的課題を説明できる。 2. 思春期・青年期に特徴的な障害や問題を説明できる。 3. 成人期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 4. 成人期に特徴的な問題を理解し、対応方法を説明できる。 5. 中年期・老年期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 6. 中年期・老年期に特有の問題を理解し、対応方法を説明できる。 7. マタニティサイクルにおける母親・父親の心理的特徴を説明できる。 8. 母子関係・父子関係を築くための親役割について説明できる。		◎		○	○	○			
	助産学研究演習	1	1		2	4	1. 助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基本的方法を説明できる。 2. 文献のクリティックができる。 3. 大学の継続受け持ち妊産婦のケアについて研究的に取り組み、文献をもとに考察を深め発表できる。		○			○	○	◎	
	母子栄養学	1	1		2	1. マタニティサイクル各期における健康教育に必要な母子の栄養と食事について説明することができる。 2. 妊産婦と乳児期の前駆栄養について説明することができる。 3. 胎児期・思春期・更年期における健康教育に必要な栄養管理について説明できる。	○	◎		○	○				
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	2	1. キリスト教の人間観と世界観を理解し説明できる。 2. 生殖医療・胎児診断と生命科学に関連づけられた生命倫理に対する考え方を理解し、説明できる。 3. 遺伝子検査・不妊相談におけるカウンセリングの対応を説明できる。 4. 産前における子どもの生死や障害の受容に対応する親の支援について説明できる。 5. 倫理的見地からみた助産師の役割の重要性を説明できる。		○					◎	
助産の実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	1. 助産師に必要な妊婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 妊産婦のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 妊産婦のフィジカルアセスメントに基づき、妊婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。		○			◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特性を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度を習得することができる。	○				◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	1. 助産師に必要な産褥の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 産褥期のフィジカルアセスメントに基づき、産褥に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。		○			◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		2	1. 新生児・乳幼児の形態・機能的特性と適応過程について説明できる。 2. 新生児・乳児のフィジカルアセスメントに必要な診察法とその実施を説明できる。 3. 新生児・乳児に起こる異常と疾患およびその対応方法を説明できる。 4. 出生直後の新生児のケアおよび蘇生法を実施できる。 5. ハイリスク新生児の病態について説明できる。 6. NICUにおける児や家族への支援について説明できる。 7. 乳幼児の成長・発達過程について説明できる。		○			◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	1		2	1. 周産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 周産期に活用する医療機器の操作や検査・データの判読ができる。 4. 周産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患をもつ対象のケアを説明できる。	○					◎			

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につながる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方や助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
				前期	後期		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1
専門科目 女性の健康支援論	助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	2	2		4	4			◎		○	○	○	○
	助産診断・ケア学VII(助産過程演習)	2	2		2	2	○			◎	○	○	○	○
	助産管理論	1	1		2		○	◎	○			○		
	助産管理学	2	2		2	4	◎					○		
	地域母子保健	1	1		4		○	◎	○			○	○	○
支援科目 助産の実践領域	総合看護学	1		1	2		○					◎		
	母性の運動科学	1	1		2		◎							
	子育て支援論	1		1	2		◎					○	○	○
	助産学基礎実習	4	4			実習					○	○	○	◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5			実習					○	○	○	◎
実習	助産学実習Ⅱ(正常逸脱)	3	3			実習					○	○	○	◎
	助産管理実習	1	1			実習					○	○	○	◎

2018年度 短大一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)					
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
キリスト教教育	キリスト教Ⅰ	2		◎					
	キリスト教Ⅱ	2		◎					
初年次教育	初年次セミナー	1		◎					
女性と健康	運動と健康	1		◎					○
	スポーツ実技		1	○					◎
	女性とマナー		*1	◎				○	
	女性史		*1	◎					
	共生社会とジェンダー		*1	◎					
	女性と装いの文化		*1	◎				○	
基礎教養	心理学		2	◎					
	文学		2	◎					
	日本国憲法		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎				○	
	経済学入門		2	◎					
	生活の中の環境学		2	◎					
アカデミックスキル	メディアリテラシー		2	◎					○
	情報処理入門		2	◎					○
	英会話入門		1	◎					○
	こどもとふれあう英会話Ⅰ		1	◎	○				○
	こどもとふれあう英会話Ⅱ		1	◎	○				○
	ハンブル入門		1	◎					○
	日本語表現法		1	◎					○
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎					
	北九州の技と文化		1	◎					
キャリア形成支援	キャリア開発		1	◎					
	実践キャリアプランニング		1	◎					

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針 (DP)

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士(保育学)の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を探究する力を有している。

DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。

2. 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩奉仕」を理解させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

3. 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教保育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指している。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進行する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。

4. 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な科目を別途資格免許に係る必修科目として配置している。また、多様化する社会のニーズに対応するためにビジュアル資格、こども音楽療育士、認定ベビーシッター資格が取得できる選択科目を配置している。

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次																	
			前期	後期	前期	後期																
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3						
専門教育科	教職に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	保育者論	2		2																
			保育原理	2		2																
			教育原理	2			2															
			こども家庭福祉	2		2																
			社会福祉	2		2																
			社会的養護 I	2			2															
			こども家庭支援論	2			2															
目	すめる職に目録	保育の対象の理解に関する科目	教育相談とカウンセリング	2			2															
			保育の心理学	2		2																
			こどもの理解と援助	1			2															

授 業 科 目	必 選	修 択	週 授 業 時 間 数				到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
			1 年 次		2 年 次														
			前 期	後 期	前 期	後 期													
こどもの保健		2		2				◎	○										
保育の対象の理解に関する科目	こどもの食と栄養	2			4	(4)		◎										○	
	こども家庭支援の心理学	2		2					○	◎									
専 門 教 育 科 目	教職に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価 (教育課程含む)	2		2										○			◎	
		保育内容総論	1		2				○									◎	○
		保育内容「健康」	1		2				○									◎	○
		保育内容「環境」	1		2				○									◎	○
		保育内容「言葉」	1		2				○									◎	○
		保育内容「表現(造形・絵画表現)」	1		2				○									◎	○
		保育内容「表現(身体・音楽表現)」	1		2				○									◎	○
		保育内容「人間関係」	1		2				○									◎	○
		保育実践の理解と方法	1		2					◎					○				
		保育メディア演習	1		2				○							◎			
特別支援教育論 (障がい児保育含む)	1		2				◎	○											
障がい児保育演習	1		2					◎										○	
子育て支援	1		2							◎	○							○	
乳児保育 I	2		2					◎	○										
乳児保育 II	1		2					○										◎	

授 業 科 目	必 修	選 択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次			1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3
			前期	後期	前期	後期											
こどもの健康と安全	1				2	1. 子どもの健康にかかわる保健活動の計画および評価ができる。 2. 子どもの養護技術が身につく。 3. 救命救急処置および応急処置法が身につく。 4. 保育現場における安全管理の具体的な方策を導き出すことができる。 5. 子どもの健康(心の問題も含む)を取り巻く関連機関との連携の在り方を考察できる。			○							◎	

授 業 科 目	必 修	選 択	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P			
			1 年 次		2 年 次																
			前 期	後 期	前 期	後 期															
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護Ⅱ	1								◎								○			
	キリスト教保育	2		2			◎											○			
	こども音楽療育概論	2		2				◎										○ ○			
	こども音楽療育演習	1			2													◎ ○			
	こども音楽療育実習	1				5日間												◎ ○			
	在宅保育	2				2												○ ◎			
専門教育科目	教科に関する科目	保育内容の理解と方法	音楽の基礎	1	2					○									◎		
			こどものうたあそび	1	2															◎	
			こどものためのピアノⅠ	1	2															◎	
			こどものためのピアノⅡ	1	2															◎	
			こどものうたと伴奏法Ⅰ	1	2															◎	
			こどものうたと伴奏法Ⅱ	1	2															◎	
			こどもの造形あそび	1	2															◎	
			こどもの運動あそび	1	2															◎	
			こどもの生活とあそび	1	2									◎						○	
			こどもの文学と物語	1	2							◎	○								
			◇	こどもの発達理解とあそび	1	2							○	◎							○
			こども文化	1	2									◎							○
			器楽アンサンブル	1	2																◎
保育総合表現	2	4													○	○		◎			

授 業 科 目	必 修	選 択	週授業時間数				到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P
			1年次		2年次													
			前期	後期	前期	後期												
総合演習	こども学基礎演習	2	2	2														
		こども学特別演習	2			2	2											
	◇ 保育・教職実践演習(幼稚園)	2				2												
教育実習	教育実習指導	1																
	教育実習 I	1		← 1週 →														
教育実習	教育実習 II	1				1週												
	教育実習 III	2				2週												
保育実習	保育実習指導 I	2	2	2														
	保育実習指導 II	1				1	1											
	保育実習指導 III	1				1	1											
	保育所実習 I	2					10日											
	保育所実習 II	2					10日											
	施設実習 I	2					10日											
	施設実習 II	2					10日											